

ボート事故から1年半冥福祈る火

三ヶ日青年の家

記 西野 友章

浜名湖でボートが転覆し、豊橋市立章南中1年の私の娘西野花菜（当時12）が死亡した事故が発生して1年半が経過した18日、浜松市北区の県立三ヶ日青年の家で花菜の冥福を祈る「菜の花キャンドル」が行われました。

浜名湖に面したハーバーにろうそく約2千本の火がともると、菜の花畑で親子3人が手をつないだシルエットが浮かび上がりました。私たちの家族をイメージし、家族の絆や仲間の大切さを表現しました。

所員や県教委の関係者らが出席し、再発防止への誓いを新たにしました。檀野清司所長は「花菜さんを思い、二度と事故を起こさないように火をともした」とあいさつしました。会場を訪れた私は「海上活動の再開は大切

かもしれないが、子どもの教育に本当に必要なものなのかも含めて考えて欲しい」とボート訓練の必要性の議論も含めた再発防止対策を求めました。

【2011年12月19日静岡新聞参照】



湖岸の灯 花菜さん追悼

事故を考える機会に

記 西野 友章

浜松市北区の浜名湖で昨年6月、研修施設「静岡県立三ヶ日青年の家」の手こぎボートが転覆した事故で、亡くなった私の娘西野花菜（当時12）の追悼行事が18日同区三ヶ日町の同施設で営われました。

花菜の名前にちなんで「菜の花キャンドル」と銘打ち、同施設が昨年末に続いて企画。湖を見渡す艇庫前広場に並べた2千本のろうそくに火を付けると、手をつなぐ私たち家族をイメージした絵柄が夕闇に浮かび上がりました。

静岡県教委は自粛している海洋活動の再開を目指していますが、私は「事故以前に戻すだけでは花菜の死はなんだったのかと思う。活動の在り方を根本から考える機会にしてほしい」と願っています。

【2011年12月19日中日新聞参照】

